平成２９年度　第二回　近肢連保育部会研修報告書

|  |  |
| --- | --- |
| 部会名 | 近肢連保育部会 |
| 実施日時 | 平成３０年１月２７日（土曜日）  １０時００分　～　１２時００分 |
| 場所 | 箕面市立箕面文化・交流センター　8階　大会議室 |
| 研修テーマ | 第２回研修　「障害のある子がいる暮らし　－親の心、子のこころ－」 |
| 講師等 | 大阪医科大学付属病院　小児科  西宮社協あおば診療所　管理医師　　　　　　氏 |
| 参加者数 | 参加者１１８名  内訳（アンケートより）  保育士：７６名、児童指導員：１５名、支援員：２名、児童発達支援管理者：１名、看護師：３名、  保育補助：３名、調理師：１名、栄養士：１名、サービス管理責任者：１名、PT：５名、OT：６名、ST：２名、学生：１名、その他：１名 |
| 研修内容 | 【内容】  ・様々な人々と長いお付き合いをする中で気づいた事（障害の有無に関わらず、人は色々・個性も色々）（障害の有無に関わらず、子育てには悩みがつきもの）  ・相談は、ポイントをまとめて、一緒に考える。  ・気管切開、胃瘻等は、子どもの機能が落ちてしまうと思ってしまいがちだが、プラスもたくさんある。  ・コミュニケーション、喋るかどうかでなく、伝える力があるかどうか。  ・私たちが知っておきたい子どもが育つ背景因子。①生物学的素因②生育環境（家庭）③生育環境（学校・社会）  ・障害は病気ではない。障害を持っていても元気。  ・兄弟→障害を持った兄弟に親がつきっきりになる。分かっているけど心がさみしい。葛藤。  ・サービスの利用しすぎから、親が子育てをしていない現実。→デイサービス等に行く方が、家にいるより良いと思わせてしまっている。親の焦りに気づく。  ・親は、第二の当事者。できない親に「これして」「頑張って」や、出来そうな親に「良いです」「素晴らしい」等、過剰に言い過ぎない配慮。親の心のゆとりを知る。  ・子どもの成長を見つけ、親の良いところを見つける。→無理させない。子育ては一生。ずっと続くもの。次に繋がるなにかを提供する。  ・あるがままを受け入れるまでの課程には時間がかかり、育ちの節目ごとに、寄せては返す波があることを理解する。  ・親と関わる私たちが、親を批判してはいけない。  ・診断はゴールではなく、障害のある子どもを理解し支援する過程の最初の一歩。  ・子どもの特性や状況、家庭環境に応じて支援することが大切。  ・青葉園での具体的な体験談をもとに、考える。（悩める子と親の楽しいお話、つらい出来事）  ・五感を使って子どもと楽しむ。（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）  ・専門職として対峙するのではなく、人として、人について悩み・考えられる人でありたい。  ・“Ｎｏｔｈｉｎｇ　Ａｂｏｕｔ　ＵｓＷｉｔｈｏｕｔＵｓ”（私たちのことを、私たち抜きに決めないで）　大事なことは、本人に。色々考えてる・感じてる！  【アンケート結果より】  ・専門職であるまえに、人として接するという事の原点に戻れる話だった。  ・子どもの心、保護者の心を感じとれる感情を失わないよう心掛けていきたい。  ・体験談が多くあり、分かりやすく、とても心に響く話だった。  ・何度聞いても、また聞きたいと思える内容だった。　　　など |
| 課題及び反省点 | ・第１回と同じ会場ということで、段取り等スムーズに行えた。  ・雪の影響で、参加できない園もあったが、多くの園に参加してもらえて良かった。 |